

1 理念

千葉の未来を切り開く！ 豊かな住生活

～社会の変化や多様化する価値観に対応した豊かな地域社会と住まいの実現～

県民が真に豊かさを実感できる地域社会と住まいを実現するためには、住宅や住宅地の質の向上に加え、地域コミュニティや住生活関連サービスの充実を図ることが重要であり、これを持続的に守り育てていくためには、良質な住宅が循環する仕組みの構築を進め、住宅政策と福祉政策の一体的取組みによるセーフティネット機能の充実や、地域における世代を超えた支え合いを通じ、県民すべてが住宅を確保して安心して暮らせる社会を目指す必要があります。

また、このような取り組みを実現するためには、防災分野、医療・介護サービス・子育て支援などの福祉分野、まちづくり分野など、豊かな住生活の形成に深く関わる施策分野との密接な連携が重要となります。さらに、地域に密着した施策展開を図る観点から、県と市町村との連携に加え、まちづくりなどに主体的に取り組む地域住民の団体、NPO、民間事業者など、担い手となる多様な主体と連携し、計画を推進していくことが重要です。

千葉県の持つ様々な魅力を最大限活用するとともに、多様な個性が力を発揮できる社会を作ること、すべての県民が豊かな地域社会と住まいを実現し、「千葉の未来」を創造していくことを計画の理念として掲げることとします。

2 重視するテーマ

○ 地域の魅力を生かした、多様なライフスタイルの実現

コロナウイルスの感染拡大により、行動制限や在宅勤務、デジタル技術を活用した新たなコミュニケーションの方法など、これまでの社会生活や常識とされてきたことが大きく変化しました。それに伴い、住まいや住まいの周辺環境に求めるものの価値観が変化し、郊外への住み替え、二地域居住、移住などにより個々のライフスタイルを実現するような新しい動きが見られます。多様で魅力的な地域を有する千葉県では、これらの動きをチャンスと捉え、新しい住まい方や働き方を実現する住環境や仕組みの整備し、積極的な情報発信を行います。

○ 自然災害に備え、安全に暮らし続けることのできる地域づくり

自然災害の頻発、激甚化が千葉県でも見受けられます。特に令和元年房総半島台風など一連の災害では約 10 万棟もの膨大な住宅被害が発生しました。地球温暖化による気象変動により、今後も災害の発生頻度の増加が予測されます。また、首都直下型地震も高い確率で発生すると言われ、住まいや地域の安全・安心の確保に向けた取組が求められています。このような状況を踏まえ、平時から住宅や住宅地の安全性の向上に努め、災害発生時にも多様な主体の連携による迅速な応急対応と復旧を可能とする体制づくりに取り組みます。

○ 安定して住まいの確保が図られ、安心して暮らし続けられる地域社会づくり

少子高齢化の進行、人口・世帯数の減少が見込まれる中で、千葉県の活力を維持していくためには、子育て世帯や若年世帯に選ばれ、安心して住み続けていくことのできる魅力的な住宅供給と住環境の形成が必要です。また、住宅確保に配慮が必要な低所得者、高齢者、障害者、ひとり親世帯などは今後も増加し、さらに多様化していく傾向にあります。これまでも公営住宅や公的賃貸住宅を中心に対応してきましたが、住宅確保要配慮者の更なる居住の安定を図るため、多様な民間賃貸住宅の活用を促進し、官民連携による住宅セーフティネット体制の充実を図ります。

○ 脱炭素社会への転換を目指した質の高い住宅ストックの構築

2050 年までの温室効果ガスの実質排出量ゼロを目指した脱炭素社会の実現に向けて、様々な分野での脱炭素の取り組みが始まっています。住宅分野においても長寿命でライフサイクル CO2 排出量が少ない長期優良住宅ストックや ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）ストックの拡充などが求められています。千葉県においても住宅の省エネルギー化などに取り組んできましたが、これまで以上に取組みの推進を強化し、未来へ受け継ぐ良質な住宅ストックを構築していきます。